



読
本

山都町
熊本県

暮
ら
し

や
ま
と

夏はもちろん！
冬もいい♪

阿蘇山麓のまち



山都町

YAMATO-CHO
KUMAMOTO/JPN

【発行】 山都町役場
〒861-3592 熊本県上益城郡山都町浜町6番地
TEL 0967-72-1111 FAX 0967-72-1080
E-mail yamatokurashi@town.kumamoto-yamato.lg.jp

【発行日】 2020年3月

※本誌掲載の写真・文章等の無断転載を禁じます。

「山の都」で、 暮らしてみたら

Part 1 移住者インタビュー

Contents

Part 1 移住者インタビュー

「山の都」で、暮らしてみたら

移住して2年「坂田さんご夫妻」の暮らし 3



移住して4年「上田さんご家族」の暮らし 5



Part 2 「山の都」って、どんなところ？

山都町はどんな町？（風土・環境） 7

山都町はどこにある？（アクセス） 8

山都町の医療環境（医療機関の紹介） 9

山都町の子育て環境 10

山都町の小・中学校 11

山都町の高校「矢部高等学校」 12

Part 3 「山の都」を、もっと知りたい！

山の都地域しごとセンター 13

山都町役場 14

【表紙】坂田さんご夫妻がリノベーションした家のリビング。

【裏表紙】上田さんが有機栽培で育て、収穫したニンジン。

移住して2年

「坂田さんご夫妻」の暮らし



不便なことも、自分で楽しくすればいい。

山都町小笹の円形分水から井無田高原へ抜ける道をぐねぐねと進むと、壁に飾られた大きなリースが目を引く家

りがともって、「近所さんから『地域が明るくなった』と言われたのは嬉しかったですね」と話す。

手間がかかるから愛おしい暮らし

誠久さんは、東京の畑のハウスで使っていた薪ストーブを持ってきた。「スイッチ一つで火がつかないし、薪割りも面倒だし熱効率も悪い。無駄な時間かもしれないけど、火がついた時の



灰を全部取ってきれいにして、焚きつけを入れて…という手間を惜まず、薪ストーブを愛用。

Interviewee information

ボビー&ナンシーこと
坂田 誠久さん・陽子さん
【家族構成】ご夫妻・愛犬2匹
【移住前のご住所】東京都町田市三輪町

が見えて来る。実はここ、建築施工の現場監督を経験し、家づくりの全般を知る坂田誠久さんが、セルフリノベーションした家だ。最初に町の空き家バンク制度の相談に訪れた際にも「なるべく手のかかる空き家を探して欲しい」とオーダーしたというから驚き。そのことを聞いた奥さま・陽子さんは「不可能ってない人だ」という信頼感があるし、なんとかなる! と思っていましたね」と微笑む。

30代でアウトドア用品やキャンピングカーのレンタル事業を起こし、50代で当時住んでいた東京都町田市三輪町の自宅をセルフリノベーション。同時に300坪の土地で有機農業をしてい



通りから目を引くリースは、すべて森の中から採ってきた素材で作られている。

快感や、薪をくべている時間は貴重」と笑顔。陽子さんは、お店で見かけた植木の処分品を「レスキュー」して自分の畑で育てている。「この家もそう。」レスキュー「してあげるのが好き」と、家や自然にも手をかける日々の暮らしの中で、特にお気に入りの時間を教えてくれた。

町内外の子どもを集めて交流を

自宅の他に、町内の小峰にも空き家を有する坂田さんご夫妻。もちろん、ここも現在セルフリノベーション中だ。「海に面する天草や八代の子ども達と、



陽子さんの「大好き」がたくさん詰まった作業部屋も手づくり。「縫製の途中でもそのまましておける部屋が欲しかったんです」と満面の笑み。

たという誠久さん。60代を目前に、地元・熊本に帰ろうとした際に決めていたことは、本格的に家をセルフリノベーションしながら里山暮らしをすることだった。

グランピングで空き家をリノベ

移住後はなんと床の無い家の中にテナントを張り、グランピングしながらの様相でリノベーションをスタート。間もなく地域のコンクリート打ちの村役をした際に、「明日、自分の家の小屋もコンクリート打ちをする」と地域の人に話すと、「機械もあるし人手もある。今日したらよかたい」と言われ、そのまま地域の人たちと一緒に作業をしたことも。「そこからどんな地域に溶け込んでいきました。いろんなことをやると地域が分かるし、地域の人が見てくれているんですよ」。朝、陽子さんが愛犬の散歩をする、両手がいいただきものの野菜でいっぱいになることもあったとか。「通りに面したこの家に灯

ここ山都町の子ども達と一緒に活動したい」と、いずれ宿泊所を備えた農家体験の拠点にしたいと考えている。「どこにいてもそうだけど、不便を楽しむことができる人にはぜひ山都町に来て欲しい」。ご夫妻まさにその言葉を体現しながら、この里山の暮らしを満喫している。

薪ストーブがある側の壁は、一度すべて壊して施工し直した。窓や家具などは蚤の市や古道具でお気に入りの調達。



移住して4年

「上田さんご家族」の暮らし



自分たちが考える
暮らしに近いのが
農業でした。

「農業が、自分や家族のルーツになるかな」という思いもあって。作物づくり

成果が出たという。地元の農家の集まりにも所属。栽培技術について尋ねれば何でも教えてくれる風通しの良い環境や人の繋がりも、裕之さんを後押しした。

お気に入り
食糧自給率の高さ！

「先日、猪鍋をしたんですけれど、買ったのは豆腐くらい。自家製の味噌もあるし、育てた野菜やいただいた食材な



ニンジンをお裾分けしたおばあちゃんが、翌日に持ってきてくれたという唐辛子味噌。ご飯が進む味は、上田家で大人気。

Interviewee information

上田 裕之さん・佳奈さん
【家族構成】ご夫妻・お子様一人
【移住前のご住所】オーストラリア

もやっぱり根っこが大事で、普段なかなか目に見えない地下の基盤を大切にしていきたい」。2019年4月に農家として独立した上田裕之さんが「ルーツオーガニックファーム」という屋号に込めた想いを教えてくれた。現在、サトイモやタマネギ、ニンジンなどの野菜を有機栽培で育てている。

奥さま・佳奈さんとは、ワーキングホリデーで滞在中のオーストラリアで出会った。佳奈さんの実家が熊本県ということもあり、富山県出身の裕之さんは熊本に移住することを決意。いろんな地域を見て回ると、町の『山の都地域しごとセンター』を通して、町内の飲食店で働く縁を持った。「その頃、いつか飲食店」と、農業をミックスしたようなことをやりたいなと思っていて。すぐに農業は難しいかと思っていたので、飲食店でお世話になることにしました。最初の1年間は、町が用意した短期滞在施設に居住。ほどなく佳奈さんが妊娠・出産。しかし、産後の大変な時期に裕之さんは仕事でなかなか家に居られず、サポートできないことが気が



お隣さんが養蜂した蜂蜜を巣ごといいただいたことも。巣も食べられると聞いて大切にいただいている。

どで立派な食事になりました。ご近所の方との物々交換も暮らしの楽しみのひとつです」と佳奈さん。最初は知り合いもいない中、地域の女性の集まりもあるなど不安や戸惑うこともあったが、少しずつ知り合いも増え、育児のことを相談する人もできた。「町の子育て支援センターの方も、地域の皆さんもとても親切で。同じ歳の子を持つ方なんて、安心感はとてもありますね。住めば都です」と笑顔。

新たな家族を迎え
より豊かな暮らしへ

上田家では、もうすぐ新たな家族を

かかっていた。

農家として
新たにスタート



農家として独立してつけた屋号
Roots Organic Farm
(ルーツオーガニックファーム)

裕之さんはお世話になった飲食店をやめ、農業に従事することを決意。町の農業研修制度を活用して1年間に有機農家のもと、OJTで研修を受けた。同時に、農家としての家探しも始まった。トラクターやコンテナが置ける納屋があるのは最低条件。さらに、町内でも畑の面積が広いと言われる今の場所しかないかと思いきや、転居。近所の方に農地を紹介してもらったことが、初年度は想定していた以上に満足のいく

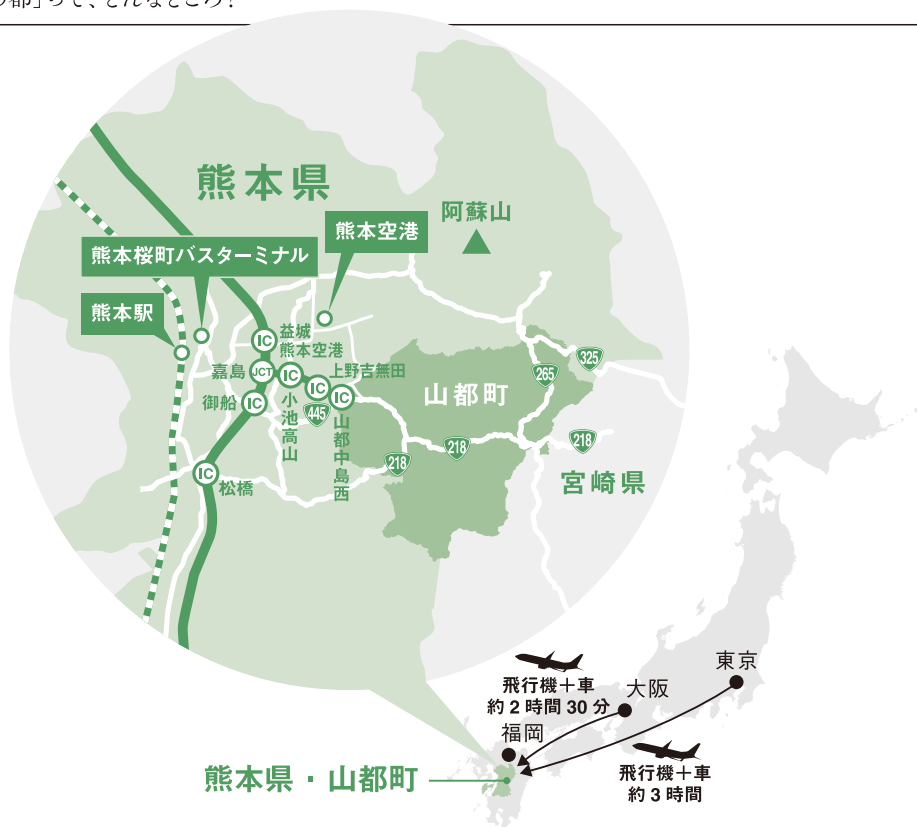
迎える。妹の誕生が待ち遠しいお姉ちゃんには、はにかみながらママのお腹に頬をあてる。仕事に一生懸命になって生活がおろそかになるよりも、家族とのかけがえのない時間や暮らしを大事にしたい。人生の基盤を大切に思う上田さん家族にとって、最適な暮らしがここにある。



裕之さんが熊本に移住してから作りはじめたという自家製味噌。1年ものと2年ものの味噌を混ぜていただく味噌汁は格別。



味噌作りの工程で出る“たまり醤油”も上田家になくてはならない調味料。

山都町は
どこにある？

最寄りの 空港

熊本空港
(阿蘇くまもと空港)
◎ 約 35 km



自家用車で約 45 分



バスで約 1 時間 30 分
◎ 産交バス「特急かちほ号」

最寄りの 駅

熊本駅
◎ 約 42 km



自家用車で約 1 時間



バスは
熊本桜町バスターミナル
から乗り換え

最寄りの
バスセンター

熊本桜町バスターミナル
◎ 約 41 km



自家用車で約 1 時間



バスで約 1 時間 30 分
◎ 熊本バス

最寄りの
インターチェンジ

山都中島西 IC
◎ 約 13 km



自家用車で約 17 分

※鉄道は運行していません。

山都町は
どんな町？

自然に感謝し、お互いが支え合い、
一人ひとりを大切にする心豊かな地域社会を築いている町です。

地勢

山都町は、熊本県の東部、九州のほぼ中央「九州のへそ」に位置しています。町の北部は阿蘇山、南部は九州脊梁の山々が連なり、これらを水源とする二つの主要河川が東西に流れ、起伏に富んだ独特の渓谷美を形成しています。滝や渓谷などの景勝地が多いことに加え、山や川などの自然を活かした名所やレクリエーション施設が数多く点在しており、ありのままの自然に触れ合える拠点として親しまれています。

九州の
ほぼ中央！

山都町

気象

山都町の気候(矢部試験地調べ)

☀ 平均日照 132 時間/月

💧 平均降水量 201mm/月

🌡 平均気温 年間 13.9℃/月

1月 1.8℃/月

8月 24.8℃/月

居住地域は標高300m～900mに位置しているため、夏は涼しい反面、冬は降雪もあり寒さが厳しい準高冷地です。平均気温も熊本市内の観測地と比較すると、各月において3～4℃程度低くなっています。

産業

地形的な変化に富み、狭い耕作地など厳しい地理的条件ながら、先人の知恵と努力によって巧みに水を導き、農業を中心とした生活を営んでいます。特に有機栽培生産者が多く、有機農業発祥の地とも言われています。



水路橋「通潤橋」によって潤いをもたらされている棚田。「通潤用水と白糸台地の棚田景観」は国の重要文化的景観に選定されています。

山都町では、少子化・核家族化に対応し、安心して子どもを産み、育て、子どもが健やかに成長する地域社会を形成していくための環境の確保を進めています。また、平成 29 年度には公立保育園に子育て支援センター、病後児保育室を併設し、山都町の子育て支援の拠点となる統合保育園が開園しました。多様な保育ニーズに対応する子育て支援を行い、子育ての不安や悩みに対する相談体制の充実を図ります。



保育園

福祉課 ☎0967-72-1229

公立保育園 5 園

【受入年齢】0歳～就学前

【開所時間】7:30 から 18:30 又は 19:00 まで

- 延長保育可能
- 給食あり
- 一時保育あり

私立保育園 5 園

【受入年齢】0歳～就学前

※乳児園は0歳～3歳未満

【開所時間】7:00 から 19:00

※乳児園は 7:00 から 18:30

○バス送迎あり(※乳児園・菅尾はなし)

○延長保育可能 ○給食あり ○一時保育あり

※詳細は、役場福祉課へお問合せいただくか、ホームページ(P14 参照)をご覧ください。

子育て支援

福祉課 ☎0967-72-1229

山都町子育て支援センター
☎0967-72-1928

育児の不安・悩みなどの相談を受けつけたり、出張ひろばや子育てセミナーなどを開催し、楽しい子育ての応援を行っています。

山都町ファミリーサポートセンター
☎0967-72-1928

「子育ての手伝いをしてほしい人」と「子育てのお手伝いをしたい人」との相互援助活動を行っています。

子ども医療費助成 新生児から18歳の年度末までの医療費助成を行っています。

出産祝い金 出生児の父または母に対し、出産祝い金を給付します。

身近なところで安心して医療を受けられるように、「かかりつけ医」の推進や医療体制の充実を進め、地域の実情に応じた適切な医療環境の確保を図っています。

医療機関

※診療時間など詳しくは、各医療機関にお尋ねください。

山都町包括医療センター
そよう病院
(救急告示病院)

内科、外科、小児科、消化器外科、循環器内科、整形外科
眼科、リハビリテーション科、呼吸器内科、小児外科
精神科、心療内科、歯科、歯科口腔外科

矢部広域病院

内科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、外科、
肛門外科、整形外科、麻酔科

瀬戸病院

泌尿器科、眼科、内科、リハビリテーション科

伴病院

内科、外科、婦人科、リハビリテーション科

山口医院

婦人科、内科、皮膚科、小児科

野田医院

内科、小児科、消化器科

高田整形外科
クリニック

整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科

坂本クリニック

内科、小児科、胃腸科

せいわ歯科
クリニック

歯科
小児歯科

豊田歯科医院

歯科

野田歯科医院

一般歯科
小児歯科
口腔外科
矯正歯科

浜町歯科医院

歯科
小児歯科
矯正歯科

どうのうえ歯科
クリニック

一般歯科
小児歯科

小児救急
電話相談
(全国同一事業)

小さなお子さんをお持ちの保護者の方が、休日・夜間の急な子どもの病気にどう対処したらよいのか迷った時に、小児科医師・看護師へ電話による相談ができます。

相談方法 電話で ☎8000 をプッシュすると熊本県の相談窓口へ転送されます。

相談時間 毎日夜間 午後 7 時～午前 0 時

注) 町内に「産科」はありません。近隣市町の最寄りの産科医については、役場健康ほけん課健康づくり係(☎0967-72-1295)へお問い合わせください。

山都町にある熊本県立矢部高等学校は前身の矢部実業補習学校が開設して120年以上になる歴史ある学校です。地域の基幹産業である農林業を支える人材を育成し、長く農林学校としての伝統を培ってきました。現在も、農業や林業を学ぶ専門課程が設けられており、熊本県の農林業を支える人材を輩出しています。また、昭和23年の普通科設置後は進学指導にも力を注ぎ、これまでに小中学校や高校の教員をはじめとして、地域で活躍する人材を多数輩出してきました。



全学科1年生による田植実習

矢部高等学校

教育委員会 ☎0967-72-0443

《矢部高校生・保護者への支援》

町では、矢部高校への進学奨励として、入学支度金及び教科書購入等について助成を行っています。また、下宿助成やバス通学助成も行っております。詳しくは山都町教育委員会までお問い合わせください。平成31年4月には地元NPOによる学生寮が開設されました。

◎ 矢部高等学校 熊本県上益城郡山都町城平954

食農科学科

食農科学科では野菜や草花の栽培をはじめ、農産物の食品製造などを行います。また、調理や被服の技術習得や保育、福祉の学習にも取り組んでいます。

林業科学科

林業科学科では林業の専門知識を学び、測量や木工技術、森林の管理などを行います。また、八朔祭の大造り物製作にも取り組んでいます。

普通科

普通科では高い学力や幅広い知識を身につけ大学・短大・専門学校進学や公務員などに進路選択が可能です。また、商業科目も学習でき簿記検定などの資格取得にも取り組んでいます。

矢部高等学校ホームページは、「矢部高校」で検索してください。
<http://sh.higo.ed.jp/yabesh>



小・中学校では、家庭や地域社会とともに子どもを育てていくという視点にたって、開かれた学校づくりを推進しています。特に、家庭や地域の人びとの協力のもとに、地域の歴史・文化、自然環境など身の回りの地域資源を活用した取り組みを推進し、学校の休みの日に学校体育施設を開放するなど、家庭や地域社会との連携を深めています。更に、子どもの健康を守る観点から、学校給食における地元農産物を活用した地産地消の推進を図り、農業の果たす役割を理解する学習にも取り組んでいます。



小学校・中学校

教育委員会 ☎0967-72-0443

《通学支援》

山都町は面積が広大なため、学校までの通学が遠距離となる地域もあります。遠距離通学となる児童や生徒には、スクールバスの利用、または通学に要する費用（自転車購入等）の助成も行っています。

※通学支援の対象になるかどうかは事前の確認が必要です。

小学校 6校

- ◎ 中島小学校 山都町北中島 2333-1
- ◎ 矢部小学校 山都町下馬尾 17
- ◎ 潤徳小学校 山都町入佐 264
- ◎ 清和小学校 山都町飯屋 384
- ◎ 蘇陽小学校 山都町柏 981-3
- ◎ 蘇陽南小学校 山都町馬見原 165

中学校 3校

- ◎ 矢部中学校 山都町城平 527
- ◎ 清和中学校 山都町大平 410
- ◎ 蘇陽中学校 山都町今 450-1



山都町役場

移住をご希望の方のご相談窓口 山の都創造課 ☎ 0967-72-1158

山都町の定住と移住を促進するために、町ではさまざまな支援事業を実施しています。また「山都暮らし人交流サイト」で、移住・定住に関する様々な情報を提供しています。

「山都暮らし人」で検索！ <http://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/ijyuu/>



山都町短期滞在施設

町外から本町への移住を検討する方(移住希望者等)が、本町への移住に向けて必要な調査や準備を行ったり、町民や町内集落との交流を図る間に滞在することができる施設として貸し出しを行っています。

補助金制度

増加する空き家の解消を図り、町内への移住・定住を推進するため、空き家の改修工事等を行われる方を支援します。また、空き店舗の活用、起業家支援、既存店の利益向上を図るために店舗等の改修工事等を行われる方を支援します。

※詳細は、役場山の都創造課へお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。



山都町役場ホームページ <http://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/>



山の都地域しごとセンター

山の都地域しごとセンターでは、山都町への移住を考えている方や、既に山都町にお住まいの方にずっと住んでいただけるよう、様々な企画や支援を行っています。

住居探しのサポート

空き家バンク物件、アパート、貸家、売家などご希望の条件に合わせた住居の所有者や不動産会社とのマッチングをします。

移住・定住サポート

暮らしの悩み相談、お仕事探し、地域のひととのマッチングや移住者同士の交流など「移住相談→移住→移住後」を一貫してしごとセンターがサポートします。

農業に関するサポート

農業研修制度での農業者人材育成や農業インターンシップの受け入れをしています。農業に興味のある方から本気で農業者になりたい方まで幅広い要望に対応しています。

山の都 地域しごとセンター HP では山都町に移住された方へのインタビューを行っています。



先輩移住者の生の声も
随時公開しています！

山の都地域しごとセンター

〒861-3543 熊本県上益城郡山都町上寺 1601-4

☎・Fax 0967-72-9111

✉ yamato.shigotocenter@machi-y.jp

Part 3
「山の都」を、もっと知りたい！
移住・定住のご相談お待ちしています。
お気軽にお問い合わせください。